童戯百人一首 全

文明開化
自由之人
七杉子書

惺々暁斎写

童戯百人一首叙

定家卿小倉の山荘に在て百人一首の名歌を集む僕ハ東京市街に僑居して百首の狂歌を詠ず李白が詩百篇は一斗の酒を飲尽す時間に賦せり此身を書肆の需めに應じて洋酒一硝子罎を傾くる間に時世の模容を吐露せり

其潤筆僅小一杯飲て餘物なし依て標題を百人一酒といふて允當又百人一銖と稱するも可なり

紀元二千五百三十三年第八月

七杉子　總生寛撰

（三杉）（四杉）

柿本人丸

一時まてど二時まで三時よ四時ふけて長しよをひとりかも寝ん

山辺赤人

港から出でゝけて皇国をえこみとハふじの高根に雪ハふりつゝ

猿丸太夫

英吾の調練場所よ喇叭ふくあつかう時ぞ秋ハかなしき

中納言家持

尾張町のひろうてあるきておく霜の白きをことハよぞ更けにける

安倍仲麿

洋のひろき空はれ
そりさけハ
三笠の山に
出し月かも

喜撰法師

人とさ好し
さ大祝
あし
俗あしの
世をとうち
山と人ハいふ之

小野小町

花をかざ人は車に
のせるかりにけり
みふるなかめせしまみ

蝉丸

新橋や
横浜通ふ
蒸気車わかるゝ
しるもしらぬ
あふさかのせき

策(さく)識(ぐわい)篁(さんむら)

洋(ざい)学(がく)者(しや)と理(り)こ新(しん)や(えん)を
よむべしと
りくよい告(つけ)をあやめつる

徳(さくま)町(まち)

咲(さき)て娘(むすめ)とぞしられ
町(まち)中(なか)の乙女(おとめ)
のひめ
しぜんとぞめん

僧(そうぜう)正(せう)遍(へん)昭(ぜう)

陽(やう)来(せい)院(えん)

ラシヤメンの
にんまんをさとぞす
親(おや)之(ふく)人(にん)
恋(こひ)ぞつもりてぷちとなりぬる

はろ左(さ)大(だい)臣(じん)

按(あぜ)付(つけ)て風(うぜ)の
ふためく　ざんぎりの
頭(こぶ)き頼(そめ)み
ぷちなあくふ

光孝天皇

急いで俥を
招ぐる人力車
吾が衣手に
雪はふりつゝ

中納言行平

きのふあひしが
亭主もなくてながらふ
まつときかば
いまかへりこむ

在原業平朝臣

さう広告や
を掘む兎の陸路の
からくれなゐに
水くくるとハ

藤原敏行朝臣

妻女
来て
まるもふく
洋服
ほりよ
夢のかよひ路
人目よくらん

伊勢大輔

郵便のみなとのまへハあつせともあいてことどをとどけてよこや

元良親王

横文字をよみて日給とる時は身をつくしてもあはんとぞおもふ

素性法師

十夜もまるくつかまぬ新聞紙有明の月をまちいづるかな

文屋康秀

る〜あの兎ハるくぬ下落してむべ山鯨をあぶらといふらん

大江千里

免職を おしむ 法官の人 だらし 眼鏡ひとつの 秋はいあくらまど

ざんぎりや 半髪あたま 髷きつて もとのまゝ かくしやなく 公家

三条右大臣

是を見よ 小便しても 罰や紙 人によくしられて来るよしもおふ

免伝之 新橋の銭 書ひらき 隙ど河原 とて後の こゝまで やりきれん

寸胡麦樽
酒飲いびいる
さんぺん
あるとわる
ろうぎき
とどろ
[illegible]
うらん

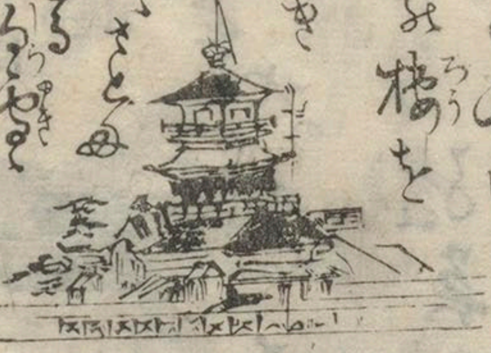
源氏
金[illegible]
山奥を
開鑿
しても
[illegible]
人めも[illegible]
かたきめの[illegible]
おもへ

凡和蘭の
新槻
さるほど
地の
金巾
けつと
綾
呉絽
おきやうど
いせる
しらぎの
もじ

毛生地
金巾の
莫大小も
あらぬ
此ちやつの
あうま
だきうり
揃へ
あふし

坂上是則(さかのうへのこれのり)

ら三五(さんご)の区(く)や四
層(そう)くみ楼(ろう)をと
ぺんきぬりき
おのさとに
めずらしき白雪(しらゆき)



各国(かくこく)の
船(ふね)の
旗(はた)じるし
船(ふね)の面(おも)へ
出入(でいり)もあへぬ
紅葉(もみぢ)ありけり
春道列樹(はるみちのつらき)

紀友則(きのとものり)

異人(いじん)まで
伴(とも)ふて
ゆりく
隅田(すみだ)河(かは)
しづ心(こゝろ)なく
花(はな)のちるらん

藤原興風(ふぢはらおきかぜ)

いろ〳〵よ西(せい)洋(よう)
植木(うゑき)をやりもし
松(まつ)もむかしの
友(とも)ならなくに

ゐなかにも亀ひける
むかし花ぞむら
跡きく野山
楼閣ぞやきもて

紀 貫之

清原深養父

日輪と地球の影てよ
かくれまた空れ
いづこに月やどるらむ

文屋朝康

らんぷやら
まつ燭の椰子実蓄り
つらぬきとめぬ玉ぞちりける

お蘭さ

風船は空天の
喜理をと思ひ
人のいふ乃
とも
しも
みるも
この

参議等(さんぎひとし)

西洋(せいやう)に留学(りうがく)をする徒日(とじつ)ハあまりてなどこの人(ひと)の恋(こひ)しき

平(たひら)の兼盛(かねもり)

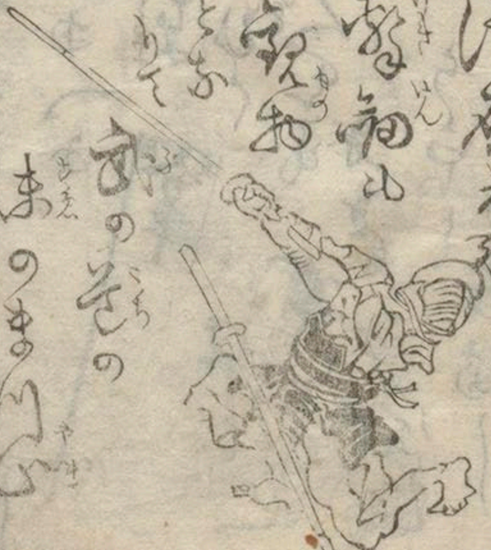
洋学(よう)ふ扮装(なり)は眼(め)鏡(がね)をもとちぢれ髪(がみ)おやあるふと人(ひと)のとふまで

壬生忠見(みぶのたゞみ)

月律(げつりつ)はじのこめてまゐる碍(がう)和(わ)れし人(ひと)しれずこそおもひそめしが

清原元輔(きよはらのもとすけ)

撃剣(げきけん)は家和(かの)とかりて前(ぶ)の手(くち)の末(すゑ)の松山(まつやま)浪(なみ)こさじとハ



中納言敦忠

月給と
禄を
おさみ帖して
むかしはものを
おもはざりけり

中納言朝忠

本資ありし給ふし
まつに
こゝろまゝ
ひく
人をも身をも
うらみ
さらまし

謙徳公

おほいそりて
のむと
寛ふとの
事生涯
あのいつゝも
ありめくだきこうな

曽祢好忠

芸園をさめくる
夫たちもかい
行末も
しらぬ
恋の
みち
かな

恵慶法師
英国の
たてし大家に
鋼かしふ動く
人こそ見えね あき
しらきま ゆあれつ来なり

源宗于朝臣
きろふきがうきて
障子の明てぬ
格子あてて 窓を
えらみこそ ろうな

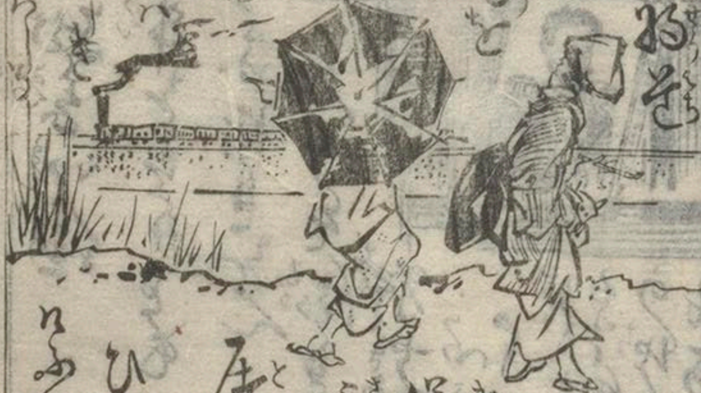
大中臣能宣朝臣
瓦斯燈の
ひかりを照
ふるも 宿人
ひるは 消て
つまを まよふらん

藤原義孝
象のせん あつてありし
巻煙草
長くもかなと
おもひける

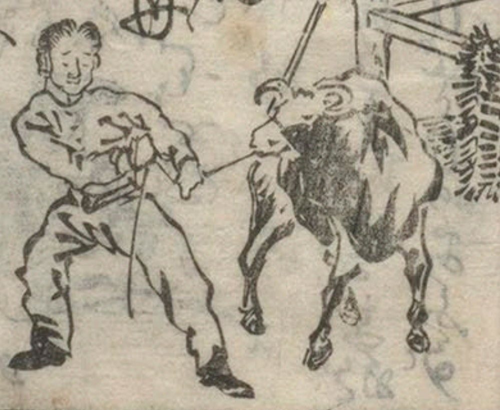
茅原(わら)の寄合茶屋(よりあひぢや)屋の たんしうハ りんえとく石(せき) 暖炉(えん)のけしも しろじかぶ もゆる煙(けむ)ひき

茅原(わら)茶漬(ちやづけ) いちりの卵(らん)の色(いろ) 世(せ)をすごく あけず 猶(なほ)うら めしや 商(あきな)ひ けうふ

おゝ大ねを 稼(かせ)ぎのめ 鉄(てつ)道(だう)と よそめかみ 隠(おん)ど 引(ひ)き入 とのまいひきしき あとうらし



牛(ぎ)同(どう)三(さん)日(の)毎 屠(と)牛(ぎう)場(ば)へ ひきずられ 生まれ牛(うし)の 身(み)ハ あはれむ るふも 流(る)ぎの いのち 哀とも



奈破崙三世
敗軍となりしとも
佛のかはりきさん
名をぞ流さん

獨やえ流きし
手ろ是まぶ[illegible]
身の[illegible]を取りて攻
のゆくえひとつのかぶる
もあらぬ

紫式部
がま口のきんちやくぞ
どうぞ私ふる
雲がくれにし
よハの月かへ

大弐三位
西洋もとうつきめ眼
がまの大茶り
いでそよ
人を
忘れや
する

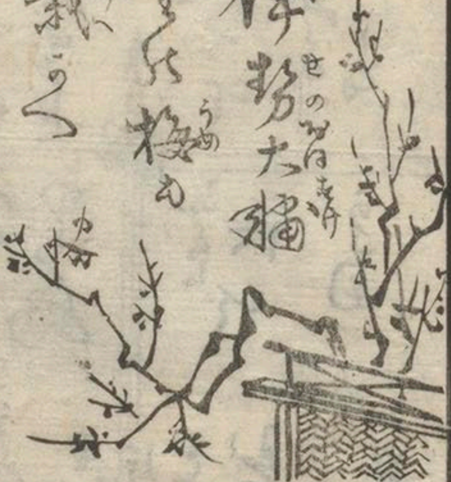
赤染衛門

赤道(あつとも) [illegible] 極(さむさ)は [illegible] 星(ほし)の [illegible] 傾(かた)ぶくまでの 月(つき)を見しかな

小式部内侍

[illegible] ふみも 見(み)ず 天(あま)の [illegible]

伊勢大輔(いせのおほすけ)

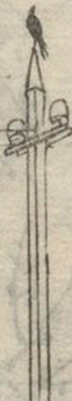


[illegible] 野(の)の梅(うめ)も [illegible] 花(はな)の [illegible] 匂(にほ)ひぬるかな

清少納言(せいせうなごん)

[illegible] はかるとも よにあふ坂(さか)の 関(せき)ハゆるさじ

左京之
爽らむ
ちーしか
てきせ
人つて
ふよしも



定頼權
中納言
錦
心の
からめ
あしたで
この角

風
ふけい
君の
あめのつよさ
とおきいでとも
あらはれてくる
せし のあどろ手

お杉
志ろう
世界を
兼めへ手
鏡みくもらん
あやーそおーねし

西宮の供や
どちらぬかしてくひと
ちまよう
おかしろ人も
あし

菊の大僧正行尊

肉付ゆゝし
中国とほれかりしまゆの
囲繍る
くひかへえん
おしきそ

がす燈のひかりかゞやく千代田町
うるはしくいつの
月の事

三条院

能因法師

やぶ
招き手の
紅粉
粧わかや
晴衣裳の
龍田川の
にしきなりけり

横浜を出て
築地のほてる館
いづれも
おなじ
秋の
夕暮

良暹法師

大納言経信

らしや屋ふ靴を
自慢のまぶ
婦人
あしのまろやみ
秋風ぞふく

祐子内親王家紀伊

みちもぢく
きうかめ
ぽんぷの
えけ陽ろみ
かきどや
袖の
ぬれも
きつそれも

前中納言匡房

そんとく
せいハ
あかれ上海
のさき
にけり
外山の霞
たゝずも
あらなん

源俊頼朝臣

うかりける
千雲の釜
湯よげんを
の
はげし
かれとハ
いのらぬ
ものを

藤原基俊

柯たを開き蝦夷地の開墾よあつきとしの秋もいぬめり

法性寺入道前関白太政大臣

大風もいとはで蒸気船雲井よまがふ煤烟ハ白浪

崇徳院

おせハあくがよ胴郷の維会よくても末もあいんとぞおもふ

源兼昌

のがれと思ふあららハ大地幾よねざめぬ江戸のせきもり

右京大夫通輔

電線の 机をてらす 十好るぎ まれいつる肉れ のげの きやけき

待賢門院堀川

うけ取し ても やもと時計 こ於きせん 今さいハ もあさとえん おもへ

後徳大寺左大臣

登楼あ 千

附郁の 雲ハ おそろしく 月 有明の つきぞ のこる

道因法師

ちかごろは うきに たへぬハ 車ひく 親父ハ みせぐ 遊女 と よそ 道因法師

富士大伯
亀のたいこ
修業

黄鶯軒
獣のありを
嗅ぎの
山のおくみあ
荒ぞあらしめる

藤原清輔朝臣
何のまも年経ば
ときとあらしと
ひとしぞ
臥寝しき

修験者
免職み
あきい
出てりく
おみあの
閨の
ひかりく
やまのなか
くりや

陸筋をとめてい
あげく寒め
中ぬれかね
ある娘
なかこ
この身
猿
法師

辨蓮法師
ぞうりはつき
薦僧(こもそう)らくだのはりぬ
きりたちのぼる
あきの夕暮(ゆふぐれ)

くろう□つ院(ゐん)の別當(べつたう)
なにはえの□ぶら雪(ゆき)の
げいしやのひとよ
みをつくし
てや恋(えひ)

式子内親王(あいかんしんわう)
日曜日(どんたく)の休(わら)みハ
ここそあり達ハ
母(しの)ぶることの
よりもぞする

殷富門院大輔(りんふもんいんのたいふ)
ざんぎりみせるとんび
いとくふ大(おほ)らしや
のぬきとめでぬれし
色(いろ)もかへらずぞ

後京極摂政太政大臣

小きみよく月夜ぼんやり出るせいづや衣かたしきひとりかも寝ん

二條院讃岐

急さ良め出生札の石ばい人こそしらねかわくまもなし

鎌倉右大臣

君のくるまをひく人力のうちまあがり若子のつなでかなしも

学校へせがれをやるとてうつらうつらひ故郷さむく衣ころちの星

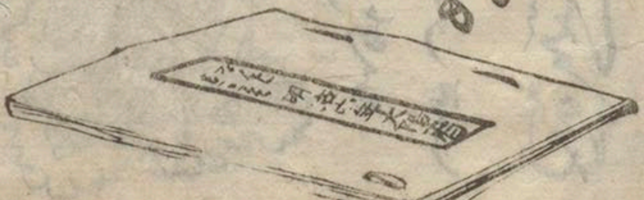
参議雅経

[illegible]大[illegible]
[illegible]
肉食と
麦酒をとばし
おとこ[illegible]
[illegible]
[illegible]のそで

[illegible]大砲
[illegible]
[illegible]
百[illegible]
新[illegible]
うつきとも
[illegible]のハ
[illegible]

[illegible]
[illegible]
ひでりけり
いつ[illegible]ずと
[illegible]
やくやもはの
[illegible]ものきつ

古と今と
暦いろいろ
みなもとで
[illegible]
[illegible]やら
西[illegible]



1001975489

發行書林

京都三條通柳馬場　堺屋仁兵衛
大坂心齋橋通南久宝寺町　伊丹屋善兵衛
仝　備後町　近江屋平助
仝　安土町　河内屋忠七
尾張名古屋本町三丁目　菱屋藤兵衛
仝　二丁目　菱屋平兵衛
東京日本橋通一丁目　須原屋茂兵衛
仝　二丁目　山城屋佐兵衛
仝　仝　須原屋新兵衛
仝　芝神明前　岡田屋嘉七
仝　仝　和泉屋市兵衛
仝　横山町三丁目　和泉屋金右衛門
仝　浅草茅町二丁目　須原屋伊八
仝　本石町二丁目角　椀屋喜兵衛

發行書林

京都三條通柳馬場 堺屋仁兵衛
大坂心斎橋通南久宝寺町 伊丹屋善兵衛
仝 備後町 近江屋平助
仝 安土町 河内屋忠七
尾張名古屋本町三丁目 菱屋藤兵衛
仝 二丁目 菱屋平兵衛
東京日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛
仝 二丁目 山城屋佐兵衛
仝 仝 須原屋新兵衛
仝 芝神明前 岡田屋嘉七
仝 仝 和泉屋市兵衛
仝 横山町三丁目 和泉屋金右衛門
仝 浅草茅町二丁目 須原屋伊八
仝 本石町二丁目角 椀屋喜兵衛